

Influenza at the human-animal interface

動物由来インフルエンザ情報

2014年1月24日現在の概要と評価

http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_24January14.pdf?ua=1

1 鳥インフルエンザ A (H5N1) 型ウイルスによるヒトの感染症

2003年から2014年1月24日までに、ヒトの鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染症
発生国：15カ国、検査確定症例数：650人、死者数：386人

WHOの動物由来インフルエンザ情報を最終2013年12月20日に更新後、2人の新たなヒトのインフルエンザ A(H5N1)ウイルス感染の検査確定症例が発生（カナダ1人、ベトナム1人）。

カナダの症例：昨年12月6日から27日の間、北京に旅行した健常者が、カナダに帰国後、12月27日に発症し、今年1月1日に急性進行性肺炎と脳炎を呈し1月3日に死亡。この症例はアメリカ大陸で最初の報告例。北京でウイルスに暴露したと思われるが、家禽や家禽で汚染された環境との接触歴は不明。カナダで接触者の追跡や調査が行われたが、追加の症例は特定されず。中国での A (H5N1) 感染による直近のヒトの症例は、昨年2月に貴州省で報告。

ベトナムの症例：ビンフック省（ベトナム南東部）で1月11日に発症。死亡。

鳥インフルエンザ A (H5N1) 型ウイルスの公衆衛生上のリスク評価

インフルエンザウイルスは絶えず家禽を循環しており、家庭で飼育している感染家禽や汚染環境に接触したヒトで、散発的感染や小規模のクラスター（集積）が起こる可能性あり。現在のところ、このインフルエンザ A (H5N1) ウイルスは簡単にはヒトに感染しないので、このウイルスが地域社会に拡散するリスクは低い状態。

表1 鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染によるヒトの検査確定症例
(2013年12月20日～2014年1月24日)

発生国	発生地	年齢	性別	発症日	入院日	抗ウイルス治療開始日	死亡日	接触歴
カナダ	アルバータ州	記載なし	記載なし	13年12月27日	14年1月1日	14年1月3日	14年1月3日	不明
ベトナム	ビンフック省	52歳	男性	14年1月11日	1月16日	抗ウイルスによる治療なし	1月18日	アヒルの処理と消費

2 他の非季節性のインフルエンザウイルスによるヒトの感染

中国における鳥インフルエンザ A (H7N9) ウイルスによるヒトの感染

WHOはこの事態を厳密に監視し、別途リスク評価を掲載（1月21日付けのWHO報告：1月28日付けで発信済み）。

中国における鳥インフルエンザ A (H9N2) によるヒトの感染

鳥インフルエンザ A (H9N2) ウイルスによる2人のヒトの症例が、中国からWHOに報告。最初の症例は、広東省深圳市に住む基礎疾患のある86才男性の香港市民で、香港特別行政区から報告。昨年12月28日に発症し、同日中に入院。12月30日に、安定した状態であると報告。症例に関する調査で、このウイルスによる他のヒトの感染例は発生せず。家禽や家禽で汚染された環境との接触歴は報告されず。

2例目の症例は、湖南省の7才の少年。昨年11月19日に発症し、外来患者として治療、11月24日

Number of Confirmed Human H5N1 Cases
by month of onset as of 2014-01-27

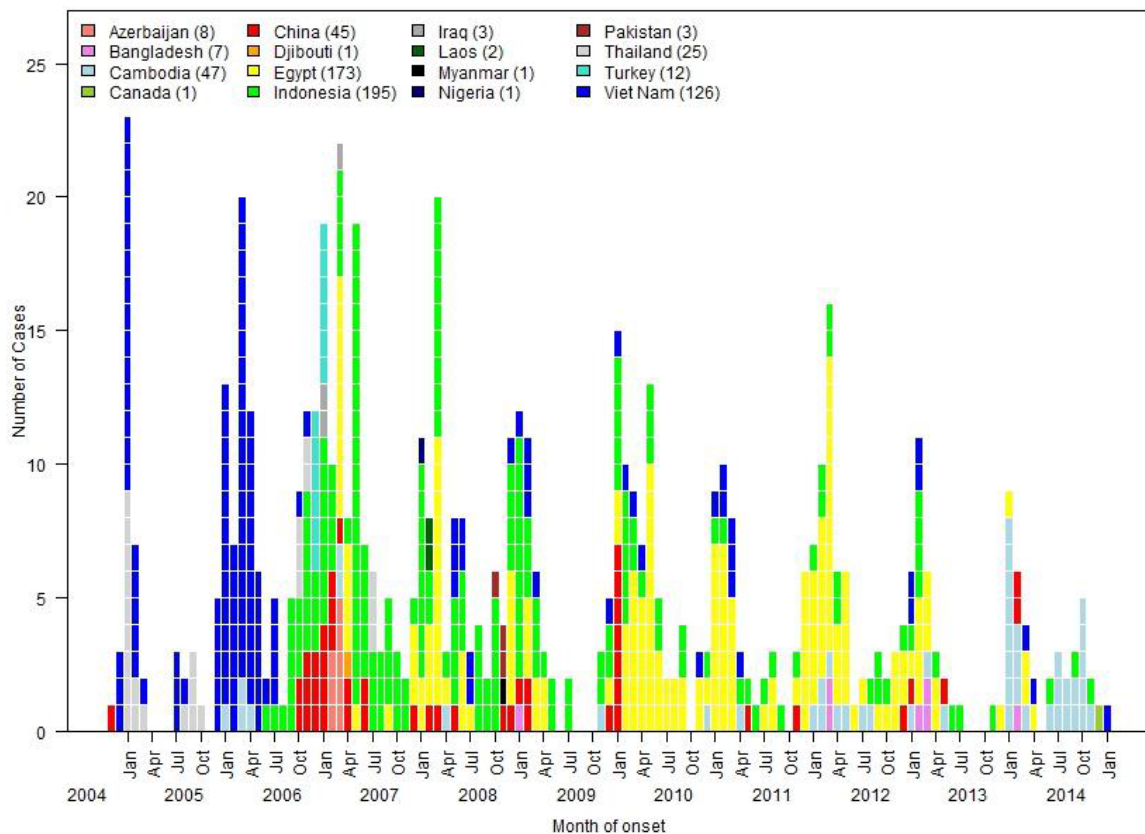


図1 国別・発症月別ヒトの鳥インフルエンザA (H5N1) 症例の流行曲線

に完全に回復。12月31日、外来時に採取された検体でインフルエンザA (H9N2) が陽性。調査により、家禽と濃厚接触があったことが判明。症例との接触者で、追加症例の発生なし。低病原性の鳥インフルエンザA (H9N2) ウイルスが、アジアと中東の全域で家禽を循環しているということが明らか。インフルエンザA (H9N2) ウイルスによる最新のヒトの感染症例は、2009年12月に香港特别行政区から報告。インフルエンザA型(H9N2)による大部分のヒトの感染症例は、軽症。

鳥インフルエンザA (H9N2) ウイルスに対する全体的な公衆衛生上のリスク評価

このウイルスがアジアと中東の全域で家禽の集団を循環しており、更なるヒトの症例と小さなクラスターは発生する可能性あり。このウイルスはヒトの間で簡単に感染せず、軽い臨床上の疾患に終わる傾向あり。したがって、このウイルスによる地域社会への拡散や公衆衛生上の脅威の恐れは低いと推定。

潜在的な公衆衛生上の脅威である鳥インフルエンザウイルスによる動物での集団発生

予測どおり、鳥での集団発生数がわずかに増加していることが広域に確認されている。また、集団発生の過去の季節性パターンに基づき、これらの事態の継続的な上昇傾向が予測される。特に、旧正月（春節：1月31日）と関係して家禽の取引と輸送の増加が予想され、その影響がある。

さらに、中国での鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスの出現とヒトの感染と関係し、中国、中国の近隣諸国、そして世界的に、ヒトと動物の両方において、非季節性亜型のインフルエンザのサーベイランスを強化。したがって、さらに多くの鳥インフルエンザA (H5N1)、A (H7N9)、多様な他の亜型のインフルエンザ、さらに再集合ウイルスが、今後数ヶ月間、ヒトや動物で検出されると予測。

インフルエンザウイルスは常に進化する性質があるため、WHOは公衆衛生や動物衛生に影響

する恐れのあるウイルス学的、疫学的および臨床上の変化を探知するために、世界的な監視の重要性を強調。早期に変化の探知ができるように、WHOは平常時のインフルエンザサーベイランスを強化することをすべての加盟国に勧奨。非季節性のインフルエンザウイルスによるすべてのヒトの感染症は、世界保健規則（2005）に則ってWHOに報告され、動物やヒト由来のインフルエンザウイルスが、適切な動物やヒトの衛生にかかわるインフルエンザレファレンス検査施設で十分な解析を行うことが重要。

平成 26 年 2 月 4 日

滋賀県衛生科学センター
健康危機管理情報センター 仮訳

注：原文では「発生国数 15」となっているので、原文のままとしたが、図 1 では発生国数は 16